

蘇州泉屋百貨と在上海日本国総領事館における県産品の PR について

■蘇州泉屋百貨と連携した県産品の出張販売

7月18日から20日までの3日間、蘇州市にある泉屋百貨で「日本産品販売フェア」が開催され、当事務所もブースを出店し、石川県の地酒や伝統的工芸品などの県産品を販売しました。

泉屋百貨内では、1階のオープンフロアに販売スペースが設けられ、特に夕方の涼しくなる時間帯には家族連れが多く訪れました。県産品の中では、スパークリングや果汁入りのお酒に対する需要が高く、それらとセットで九谷焼のお猪口を提案したところ、セットで購入するお客様も見られました。

また、このイベントの特徴は、泉屋百貨での販売に加え、近隣の日系金融機関や日系メーカーの工場に出向いて行う出張販売がセットになっている点です。最近中国国内でよく見られるようになった「職域販売」と呼ばれるこの手法は、昼休みや退社時間に合わせて行われることが多く、販売者にとっては、顧客の人数が予測しやすく、属性が把握しやすいというメリットがあります。今回私が訪問した日系金融機関と日系メーカーの工場には、それぞれ150～200名ほどの社員が在籍しており、日系企業ということでコミュニケーションも取りやすかったため、非常に効率的な販売ができました。「仕事終わりに一杯飲みたい」という理由で日本酒を購入される方や、「今度出張で大阪へ行くが、石川にも足を延ばしたい。どうやって行けばいいか？」という質問を受け、その場で北陸新幹線の予約を案内するなど観光誘客にもつながりました。このような職場への出張販売は、販売拡大のための有効なアプローチ方法の一つであると感じました。

今後、泉屋百貨では、石川県の食品や伝統的工芸品などを販売・PRする石川フェアを開催する予定であり、県産品の販売拡大に向けて、さらに後押ししていきたいと考えています。

■映画上映会における日本酒プロモーション

第26回上海国際映画祭が、6月14日から23日までの10日間開催されました。この映画祭では、上海市内各所の映画館等で中国内外の約500作品が上映され、延べ50万人以上の観客を動員、世界各国からも多くの著名人も訪れるほか、毎年多くの日本映画が出品されることでも知られており、世界初上映の作品やアニメーション、人気俳優を目当てに多くの観客が集まりました。

このように日本映画への関心が高まる時期に合わせ、在上海日本国総領事館では、日本文化を紹介するドキュメンタリー映画の上映会を毎年開催しています。今年は、能登半島地震を受けて、能登杜氏の酒造りをテーマにした「一献の系譜」が上映され、これに合わせて、当事務所では石川県の地酒をテーマとしたプロモーションを実施しました。

上映会イベントは、総領事館の公式SNSを通じて告知・募集され、当日は約80名の参加者が集まりました。映画では、能登杜氏の方々が酒造りに込める思いやこだわり、そして目

に見えない菌と対峙する酒造りの難しさが丁寧に描写されています。この作品を通じて、中国の観客にも、酒造りの工程等の基本的な情報や、杜氏たちの多大なる努力、そしてそれを支える人々の思いが伝わったものと思います。

上映終了後、当事務所から石川県の農林水産業や伝統文化の特徴、観光地としての魅力などを紹介するプレゼンテーションを行いました。特に、震災で被害を受けた酒蔵が、同業者の支援を受けて他の場所で酒造りを継続している事例（共同醸造の取り組み）を紹介した際には、参加者から「そのような連携プレーがあることを知らなかった。ぜひその繋がりで生まれた日本酒を飲んでみたい」といった反応がありました。

その後、映画に出演した杜氏にゆかりのある酒蔵の銘柄を含めた5種類の地酒を用意し、飲み比べの試飲会を実施しました。中には中国国内で流通しているものもあり、販売先の二次元コードを提示して購入を促したところ、実際に購入する参加者も見られました。また、被災した酒蔵から救出した原料を使って他の酒蔵で醸造された地酒を提供した際には、参加者から「このような貴重なお酒が飲めてとても感慨深い」との感想が寄せられ、さらに「今まで飲んだ日本酒の中で一番美味しい」という声も聞かれました。これには、お酒そのものの味わいに加え、その背後にあるストーリーが加味されたものと思います。

先人たちの努力で守り続けられてきた石川県の地酒を、海外でも広めていくため、今後も引き続きPR活動を進めていきたいと考えています。



映画上映会の様子



上映終了後の地酒試飲会



日系メーカー工場での出張販売の様子